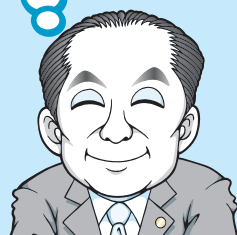


町長の一言



ふれあいタクシーに乗車

昨年の2月より運行を始めたふれあいタクシーの登録者が、2500人を超えました。

当初は高齢者や交通弱者のために巡回のバスという考えもありましたが、他の事例等を検討していく中で、デマンド方式（乗り合い）が、より効率的でサービス性も優れていることで導入しました。

最近では、各市町村でデマンドバスやデマンドタクシーの運行を始めておりますが、城里町は県内で2番目に導入したこともあり、同じような地域環境の市町村が他県から視察に訪れております。

平成19年5月の一日平均利用者は47・7人でしたが、本年5月は75・9人の方が利用しております。

私も先日、登録をして乗車してみました。

某月某日、2時に乗車しようと思い、1時25分に電話予約を入れましたら「○方面のその便は満員です

ので、その次の3時ではいかがでしょうか」という丁寧なお断りなので、3時の便に乗車することにしました。

指定場所ですべて待っていると、3時2分にタクシーが到着しました。既に2人乗車していたので私と3人で乗り合い、目的地に向かうこととなりました。お一人の方はベタンク大会の帰りで、乗車券を一枚運転手に渡し、自宅の庭まで。私は現金で300円支払って目的の地まで。同乗のもう1人の方は、私たちとは違う方面にご自宅があるようでしたが、急ぎではないから自分分は最後で良い、と遠回りにお付き合いくださり、その後、自宅の方へ向かわれました。

運行ルートの選択など運転手さん大変なところがあるように見受けました。利用者のご意見、現場の状況等もよく検討しながら、よりよい「ふれあい（愛）タクシー」にしていきたいと思っております。

文芸しろさと

俳句

野の花を押し流しては代田搔く

飯田 勇一

雨音を聞き耳立てて若葉揺れ

山崎 正行

茅葺の七堂伽藍著莪の花

今瀬 多代美

赤き実を誇張してをり若楓

田所 厚子

人の名を忘れてしまひ葱坊主

いそべ きよ

紫陽花を増やして一人ぐらしなり

森 静江

松の幹黒々梅雨のはじめれり

鯉 潤 寿美恵

廻廊の窓いっぱい初夏の風

飯村 昭子

夏帽子抱える草の花白し

竹内 幸子

苗売りのおすめ胡瓜植えにけり

仲田 まちゑ

学校の入り口大粒蛇莓

高橋 芦江

町中に風吹きたり柿若葉

飯村 愛子

撥ね返す日の燦々と柿青葉

瀬谷 博子

七時半姉さんかぶりの茶摘み簷

岩下 金司

五月雨や格天の刻みまたとなし

田口 勝元

コデマリや真白き花の清しけり

岩下 通子

短歌

沈みゆく夕日を眺めあの山の麓に残る生ひ立ちを恋ふ

佐川 あや

梅が枝の花は終はりぬユキヤナギの白群咲ける偕楽の園

杉山 みちこ

ボケ封じの観音祭りの寺庭に桜吹雪は限りなく散る

宮本 ふみ江

卯月なかば庭に木々の芽あまた出でていのちの勢ひに心は緊る

所 美恵子

はなやかに舞ひ散る花は悲しかり征きて還らぬ若き兵あらば

青柳 京子

わが夫も風の身となりさらさらと桜の花びら散らしあきらむ

山形 式 妙

耀ひて咲き満つる桜夕ぐれは仄かに白く闇に沈めり

渡辺 千紗子

懸命に戦中戦後生き居しに想ひもよらず後期高齢者

秋山 愛子

一面に水張られたる畑中に麦の穂そよぎ田植ゑはじまる

大森 久子

春待ちて咲きにし桜惜しまるる一夜の雨が無情となれり

阿良山 ウメノ

一ときの梅雨の休みか雲うすく稲田明るく蛙の合唱

仲田 こう

そびえ立つ山の緑の黒ずみてかすかに白く雨上がりの霧

富田 欽子

病み伏して心の傷もいやされる我が家はやはり日本一かな

岩下 美知野

夏近し紅きたすきに日よけ笠茶つみ嬉しき唄声のどか

市川 義子

見のかぎり山の斜面を咲き続ける夢色むらさきのかたくりの花

枝 不美

八十路越ゆる生命互みに確かめ合ひ新春の電話の語らひ長し

片見 和枝

「ダム」となり湖底に沈むこの村の山藤を悼む一期一会ぞ

川上 千代子

夜桜の灯のゆれる宿を取り夫の喜寿を息等と祝いぬ

島 愛子

公園の一隅占めるD51の車輪の奥に宿る子雀

多田 志保子

生きているこの幸せを思いつつ八十路すぎたる身をひきしむる

坪井 きよ子

石垣の石ひとつとて無駄ならず人生埋むるひと日更なり

萩谷 登喜子

晴れし朝五月の風の中に聞くウグイスの声澄みて響き来

富田 佐智子

川柳

危ないねもみじ葉はつて追越は

青木 新三郎

タクシーは公費負担でビール付き

富田 多蔵

二日酔ネクタイの色まらがえる

永井 英陽

家中がくすり飲んでる長寿国

中島 芳春

家中を湿らせて梅雨ながいする

山本 隆莊